

コース料理を堪能 セルブ水土舎の30人が食事会

富岡

富岡市の知的障害者授産施設

「セルブ水土舎」は3月18日、甘楽町の総合結婚式場「La Festa GOS HORN」で食事会を開いた。知的障害者らに、さまざまな経験をしてほしいと、ナイフとフォークを使ったコース料理の食事会を企画。当日は、披露宴会場に並んだ円卓で、約30人の障害者がハンバーグなどをほおぼっていた。

水土舎は約30人の知的障害者が通所し、社会的自立を目指してハム・ソーセージ作りや養鶏、農業などに勤んでいる。食事会は、歳末助け合い運動の寄付で実施された。

この日、障害者らはホタテの前菜、ミネストローネやフルーツワッフルほかがそろつ

たコース料理を堪能した。

「こういう場所で食べるのは初めて。ナイフとフォークを使うのは難しい」と土屋孝介さん(20)。同舎の金谷透施設長(54)は「こうした経験は、社会性を養ううえで重要。今後も積極的に地域社会との接点を持っていきたい」と話していた。



おいしそうに食べる障害者ら

2002年(平成14年)3月25日(月曜日)

テーブルマナー シェフから学ぶ

富岡の授産施設

知的障害者授産施設、セルブ水土舎(富岡市後賀、金谷透施設長)の利用者と家族、職員ら合わせて四十二人が、甘楽町庭谷の結婚式場ラ・フェスタ御所苑で西洋料理のフルコースを食べながら食事のマナーを学んだ。

同施設の利用者にナイフとフォークを使ってフルコースを食べる機会を設けようと企画し、同式場のスタッフなどで実際にシェフが「あまり力や熱いお湯をたてないで食べるのがマナー」などとナイフとフォークの使い方や簡単な指導した。

施設の利用者はホタテとサーモンの前菜、サラダ、スープ、イタリアンハンバーグなど、次々に出てくる料理に大満足。ハンバーグも器用にナイフで切り分けて、あっという間に平らげている。

シェフに教わりながらナイフとフォークでハンバーグを食べる施設利用者

